

佐用町の 次の20年に向けて

企画防災課まちづくり企画室

まちの将来像に向けて取り組む方向性を示すもの

総合計画

総合計画とは



- めざすまちの将来像に向けて
どのように進んでいくのかを示す道しるべのようなもの
- 地方自治体にとって行政運営の最上位計画に位置
- △住民全体で共有する自治体の将来自目標や取り組む内容を記載
- 全ての住民や事業者、行政が行動するための基本的な指針

佐用町合併後の総合計画 計画期間

- 第1次総合計画（H19年度～H28年度）
- 第2次総合計画（H29年度～R8年度）
- 第3次総合計画（R9年度～R18年度（仮））

総合計画の経緯

【地方自治法】

1969年～：すべての自治体で総合計画を策定義務化

(法改正)

2011年～：総合計画の策定義務なくなる

策定の義務はなくなったが、

○まちの将来像を描き

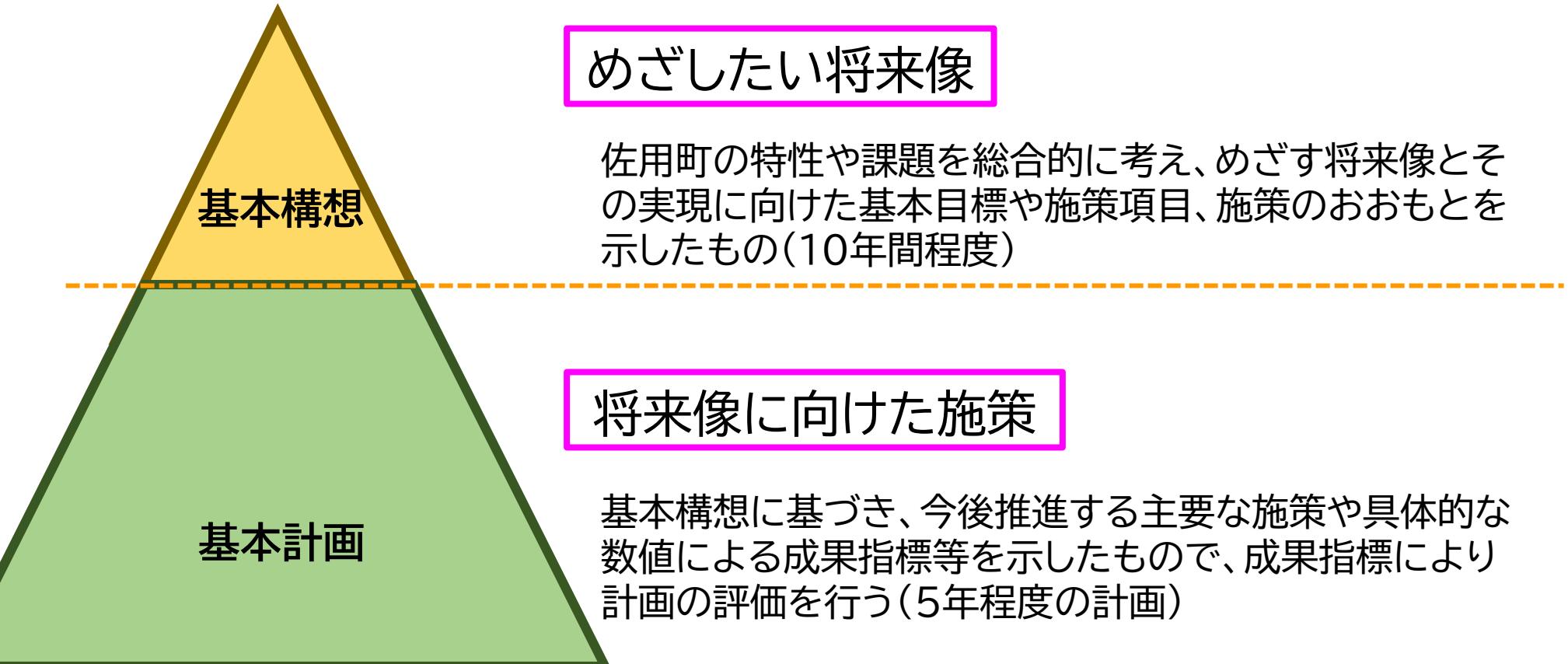
○めざす将来像に向けてどのように取り組んでいくのか

みんなの意識や取り組む内容を共有できるものはやっぱり必要



佐用町では引き続き総合計画をつくっていく

佐用町の現在の総合計画の構成



現在の総合計画の内容～基本構想～

○まちづくりの基本理念

- ✓ 自然と歴史・文化を育み 未来につなぐまち
- ✓ 協働で夢と希望をつくるまち
- ✓ 温かい絆と一人ひとりを大切にするまち

○めざす将来像

絆できらめく ひと・まち・自然 未来へつなぐ 共生の郷
～わたしたちの手で作る わたしたちのまち 佐用～

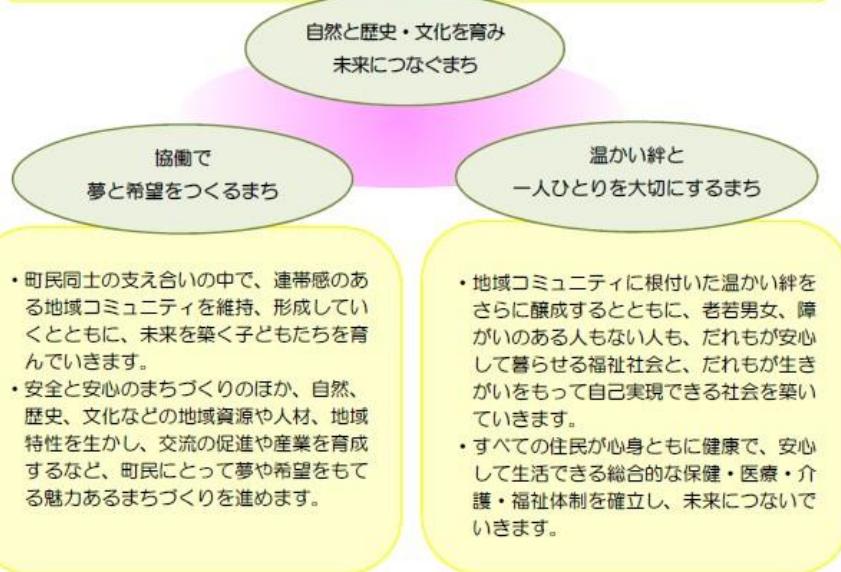
現在の総合計画の内容～基本構想～

第1章 佐用町の将来像

第1節 まちづくりの基本理念

平成25年4月に施行し、本町のまちづくりの規範として位置づけている「まちづくり基本条例」の考え方方に沿って、次の3つの基本理念を設定します。

- 長い歴史の中で育まれてきた地域の多彩な自然、歴史資源や風土、景観を今後も守り、育みながら未来につないでいきます。
- 循環型社会を構築し、地域環境の維持と持続的な発展を目指します。



まちづくり基本条例前文（抜粋）【平成25年4月1日施行】

わたしたちは、先人のたゆまぬ努力と営みによって大切に守り育てられてきたこれらの財産や自然を大切にして未来に引き継ぐとともに、安心に暮らせるまち、人を思いやり、人と人との絆が豊かな、夢や希望の持てる優しさのあふれるまちづくりを目指します。

第2節 佐用町がめざす将来像

まちづくりの基本理念と、ワークショップで出されたさまざまな意見を踏まえ、以下のようにまちの将来像を設定し、その実現を目指していきます。

絆できらめく ひと・まち・自然 未来へつなぐ 共生の郷
～ わたしたちの手で作る わたしたちのまち 佐用 ～

将来像に込めた思い

■ 絆できらめく

本町の地域コミュニティには、温もりのある連帯感が息づいています。町民同士の連帯感は、本町が進める協働のまちづくりの基盤となっているとともに、福祉をはじめ、防犯や防災などの安心・安全のまちづくりのほか、子育てや青少年の育成など、まちづくりのさまざまな分野に不可欠なものです。地域コミュニティでの支え合いを大切し、絆によってきらめき続けるまちを目指します。

絆

■ ひと・まち・自然 未来へつなぐ

本町は、全国名水百選に選ばれた清流千種川や一面に広がるひまわり畑などをはじめとする豊かな自然環境や、利神城跡、上月城跡、三日月藩乃井野陣屋跡など多くの歴史・文化遺産に恵まれています。これらは、先人のたゆまぬ努力と営みによって守り育てられてきた大切な財産です。これら財産をさらに磨きをかけ、後世へ、そして未来へつなぐまちを目指します。

未来

■ 共生の郷

地域コミュニティや豊かな自然などの財産は、お互いを認め合い、支え合うこころや、自然と調和した日々の営みの中で、今まで受け継がれてきました。今後も地域コミュニティを基盤として、持続可能で、ひと・まち・自然が共生し、魅力にあふれるまちを目指します。

共生

■ わたしたちの手で作る わたしたちのまち 佐用

それぞれの地域に息づく歴史や文化など、地域特性を大切にし、地域に生きる人たちの主体的な行動と知恵を生かしながら、町民と行政の協働のまちづくりを進めていきます。

現在の総合計画の内容～基本構想～

○基本目標と基本姿勢

～まちづくりの基本的視点～

「夢」をつむぐ新たなチャレンジのまちづくり

1. 活力と交流あふれる
2. 自然と歴史・文化を守り生かす
3. 未来を支える人を育む
4. 絆で安心を築く
5. 安全で快適な暮らしを創る

きらめきの郷づくり
きらめきの郷づくり
きらめきの郷づくり
きらめきの郷づくり
きらめきの郷づくり

現在の総合計画の内容～基本構想～

第1節 まちづくりの基本目標

将来像を実現していくため、まちづくりの基本目標を以下のように設定します。

1. 活力と交流あふれる きらめきの郷づくり

活力あるまちには独自の魅力をもつ産業の振興が必要です。農林業はブランド力や新たな農林業技術や経営手法の導入、流通経路の開拓などの試みが求められています。商工業では、低迷する日本経済と構造変化が進み、新たな企業誘致が難しい中、近隣自治体と連携した雇用の場の確保など、発想の転換が必要となっています。

さらには、まちの資源や人材などの固有の資産を生かし、コミュニティビジネスなどの起業、創業の支援や、未利用公共施設の利活用、観光を軸とした交流促進によって、新たな雇用の場を創出し、地域経済の持続的発展と安定した町民生活の確保のほか、若者流出の緩和、抑制を目指します。

2. 自然と歴史・文化を守り生かす きらめきの郷づくり

まちの最大の魅力は自然と風土に培われた歴史と文化です。豊かな自然、歴史的、文化的なさまざまな遺産は、先人の努力によって継承されてきた貴重な資産です。そしてこれらの資産に囲まれた毎日が、豊かなこころと潤いある暮らしを創出し、まちを愛するこころを育みます。

また、これらの資産は重要な経済資源でもあります。多くの人々の交流を促進し、まちの活力を再生させていくため、豊かな自然のほか、歴史的、文化的な佐用ならではの資産を磨き、それを後世に伝え、生かすまちを目指します。

そのほか、世界的な環境意識の高揚に伴い、自然と風土に調和した環境にやさしいまちを目指します。

3. 未来を支える人を育む きらめきの郷づくり

まちづくりの基本は、「まちの未来づくり」であり、まちの未来を支える「人づくり」であります。未来を担う子どもたちを含み、本町に住む人たちみんなが、まちを愛し、まちに誇りをもち続けられることが、本町の将来を支えていくことにつながります。

一方、まちがもつ固有の自然や歴史的、文化的な資産とふれあうこと、また地域コミュニティで脈々と受け継がれてきたさまざまな行事や活動は、「郷土を愛するこころ」の源です。子どもたちのみならず、町民のみなさんすべてが、これらの資産や人材、活動を維持、継承する担い手となり、学校教育や生涯学習、地域活動の中で、「郷土を愛するこころ」を育むまちを目指します。

4. 絆で安心を築く きらめきの郷づくり

まちの人口減少と少子高齢化の進行は、地域コミュニティがもっているさまざまな機能の低下を招くとともに、地域での日々の暮らしそのものが困難になることが懸念されます。

人口減少と少子高齢化の進行に対応し、地域の絆をより一層強め、お互いに助け合い、支え合う地域の福祉力を維持、向上させるまちづくりを進めていきます。また、保健・医療・介護・福祉の関係機関の連携強化と基盤整備を進め、町民だれもが健康で安心して暮らせるまちを目指します。

5. 安全で快適な暮らしを創る きらめきの郷づくり

人口減少は、日本全体の課題であり、中山間地の自治体にとっては、かねてから向き合ってきた大きな課題です。そして少子高齢化の進行は、まちの未来に大きな影を落としています。

まちの活力の維持には、バランスのとれた年齢構成が必要です。また、活力の増進のためには、若者をはじめとする生産年齢人口の増加が極めて重要です。そのために、安心・安全で暮らしやすい居住環境の整備とともに、若者にとって魅力あるまちづくりを進め、人口減少を緩和、抑制することで、佐用町に「住みたい」「住み続けたい」と思えるまちを目指します。また引き続き、平成21年の台風9号災害を教訓に、地域コミュニティと連携した防災、減災体制を構築したまちを目指します。

現在の総合計画の内容～基本計画～

1. 佐用の産業と観光・交流を創造する
2. 佐用ならではの「資産」に磨きをかける
3. 佐用を担う人を育て自己実現を支える
4. 佐用の健康と福祉を創造する
5. 佐用に住みたい環境を創造する
6. 地域活動を支え協働を確立する
7. こころの共生社会を実現する
8. 身の丈にあった行財政運営に取り組む
9. 広域連携を強化する
10. 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

現在の総合計画の内容～基本計画～

1. よりよい教育環境の整備



現状と課題

本町では、「人生は希望があってこそ生きがいがあり、希望の生活にのみ充実が期せられる」という「夢ある教育」の理念のもと、夢をもつ教育の推進に取り組んでいます。また学校においては、児童生徒や地域の実態に応じ、学校教育目標を具現化するため「学校経営概要」を作成し、教育活動を推進する中で、未来に向かってはばたく児童生徒の育成をめざしています。

人口減少が加速し少子高齢化が進行する中で、人工知能（AI）の発達をはじめとする技術革新やグローバル化が急速に進展し、教育を取りまく環境も変容しています。次代を担う子どもたちの教育では、こうした変化に柔軟に対応できる力とともに、これから社会を創造していく力の育成が重要です。そのためには、子どもたちをはじめとする全ての町民に、生涯にわたり夢や希望を持ち続けながら、目標に向かって主体的・積極的に学び続けていく力を育成していかなければなりません。その力こそが、変化に柔軟に対応する力、自ら社会を創造していく力につながっていきます。その実現のために教育環境の整備を行っていく必要があります。

施策の方針

夢があれば希望がわき、希望があれば向上心が育ちます。向上心は確かな学力や、たくましく生きるための気力・体力の習得に向けた努力へとつながります。そのため「夢ある教育」を推進し、就学前から自主的に「生きる力」を培う教育を推進します。

「夢ある教育 きらめきプラン —佐用の明日(あす)を担う、こころ豊かな人づくり—」を基本理念とし、これまでの教育の成果を踏まえるとともに、今求められている教育の理念を示し改定された教育基本法、兵庫県の教育施策に関する基本的な計画である第3期「ひょうご教育創造プラン」に基づき、今後の教育を推進していきます。

令和元年度に策定した「第3期佐用町教育振興基本計画」では、「育ちの連続性を重視した『生きる力』を育む教育の推進」・「一人一人の個性を生かした子どもたちの学びを支える環境の充実」・「人生100年を通じた学びの推進」の3つを基本方針の柱とし、「確かな学力」の育成、「豊かな心」の育成、「キャリア教育の推進」、「健やかな体」の育成、「教育環境の整備・充実」、「家庭と地域による学校と連携した教育の推進」、「主体的に生きるために学ぶ場の充実」などの施策に取り組みます。



中学校での手話教室の様子

主要施策と概要

- | | |
|--------------|---------------------------------------------------------------|
| ▶ 「確かな学力」の育成 | 子どもたちに、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現 |
|--------------|---------------------------------------------------------------|

	力及び主体的に学習に取り組む態度・人間性などを育成します。
▶ 「健やかな体」の育成	子どもたちが生涯にわたって心身の健康を保持し、いきいきと活動していくために、興味・関心や適性などに応じて適切に運動することができる資質・能力の育成を図ります。また、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身の調和的発達を図ります。
▶ 「豊かな心」の育成	自然学校、「トライする・ウイーク」などの自然体験や社会体験を充実させることによる地域と連携した体験教育を推進します。また、発達段階や一人ひとりの個性に応じて、自己肯定感・自己有用感の涵養をはじめとして、好ましい人間関係を形成する力、自立心、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、いじめを許さない心など、子どもたちに豊かな人間性と健全な社会性を育みます。
▶ キャリア教育の推進	学校の教育活動を通じ、組織的・計画的なキャリア教育を推進し「キャリアプランニング能力」「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」の4つの基礎的・汎用的能力を養います。
▶ 特別支援教育の推進	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のため、一人ひとりの子どもの特性や発達の段階に応じて能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加するために必要な力を育成します。
▶ 幼児期の教育の充実	子どもの特性や発達段階に応じて、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を充実させ、幼児同士が共通の目的を見出し、工夫したり協力したりするような教育を行います。
▶ 教育環境の整備	子どもたちが安心して学校・園生活を送るため、安全で質の高い教育環境の整備を図ります。また、すべての子どもたちが家庭環境に影響されることなく未来に希望を持ち、自己実現ができるよう教育環境の向上を図ります。
▶ 家庭と地域による保育園・学校と連携した教育の推進	家庭教育において、人間関係の基礎を形成し道徳性の芽生えを培い、規則正しい生活習慣を身に付けさせるとともに、地域全体で保育園・学校及び家庭教育を支える体制づくりや地域への愛着意識を育むための郷土に根ざした保育園・学校づくりに努めます。
▶ 主体的に生きるために学ぶ場の充実	生涯学習の推進のため、様々な世代が学びを始めるきっかけづくりのほか、楽しく学び、仲間とつながりながら、その成果を発揮できる場の創出に取り組みます。
▶ 社会の変化に対応する学校・園をつくる	子どもの急激な減少が問題となっている中、学校の活力や子どもたちの集団としての高まり、体育・スポーツ活動や合奏・合唱会などの学習展開を考慮しながら、よりよい教育環境の向上をめざし、社会の状況・変化に対応した学校・保育園の規模適正化の検討を今後も進めています。
▶ 兵庫県立佐用高等学校との連携	兵庫県立佐用高等学校と連携し、次代を担う人材育成と町内の地域資源を活用した地域活性化に努めるとともに、高校と地域との連携を促進することで、よりよい教育推進体制の構築と、地域に根付く子どもの育成・高校の魅力化に努めます。
▶ 教職員の資質・能力の向上	児童生徒の学びを支えるため、使命感や倫理観の向上、豊かな人間性の涵養、社会変化にも対応する専門性や実践的指導力の育成など、教職員の資質・能力の向上を図り、教職生活全体を通じて、学び続けることができるよう支援します。

次期総合計画策定に向けての前提条件

【前提】

○コンサルタント会社に委託せず自前でつくる

今まで
以上に

○みんなで協議・話し合ってつくる

(これまで：役場側で計画のほとんどを作成⇒審議会で文言の確認や表現の漏れがないかの確認が中心)

ちなみにこの後説明する

「縮充Book」

についても住民や役場、多くの人で協議・話し合って出来上がった

今までにないみんなの前向きな気持ちがこもった冊子が完成¹³

総合計画策定に向けた審議会のスケジュール

11/17（月） 第1回 審議会

総合計画・縮充のまちづくりについて

12/5（金） 審議会メンバー・役場PT合同検討会

これからのまちづくりのための行動を考える

2/8（日） 縮充フォーラム（検討）

山崎亮さん講演 ほか

2/20（金） 第2回 審議会

総合計画の内容協議

5月頃

第3回 審議会

基本計画素案共有・審議

予定

7月頃

第4回 審議会

基本構想、計画、目標KPIを共有・審議

9月頃

第5回 審議会

基本構想、計画、目標KPIを確認

10月頃

第6回 審議会

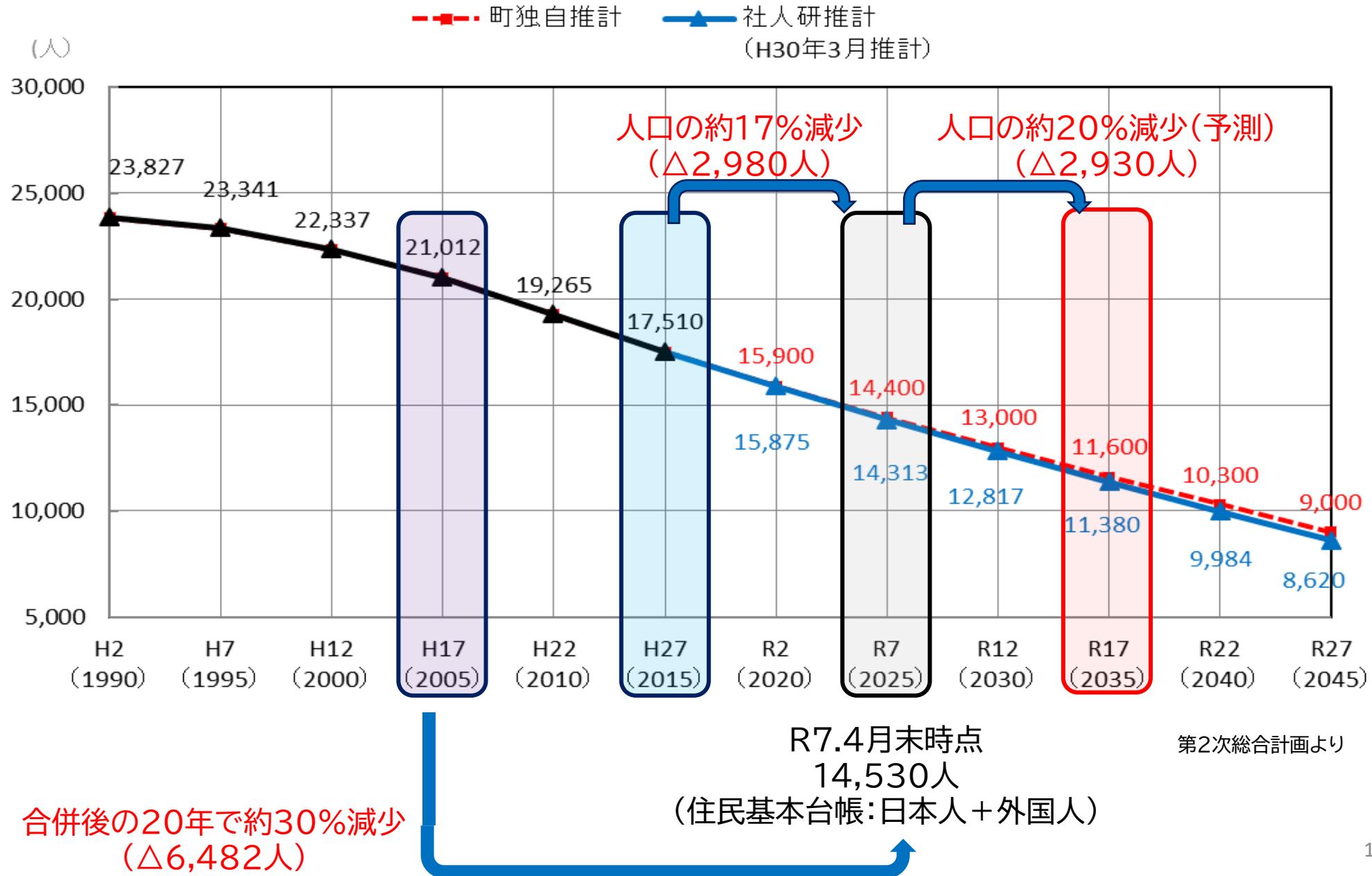
パブリックコメント意見共有・最終審議
(予備)

11月頃

次期総合計画を考えしていく前に

佐用町の状況を共有

佐用町の人口

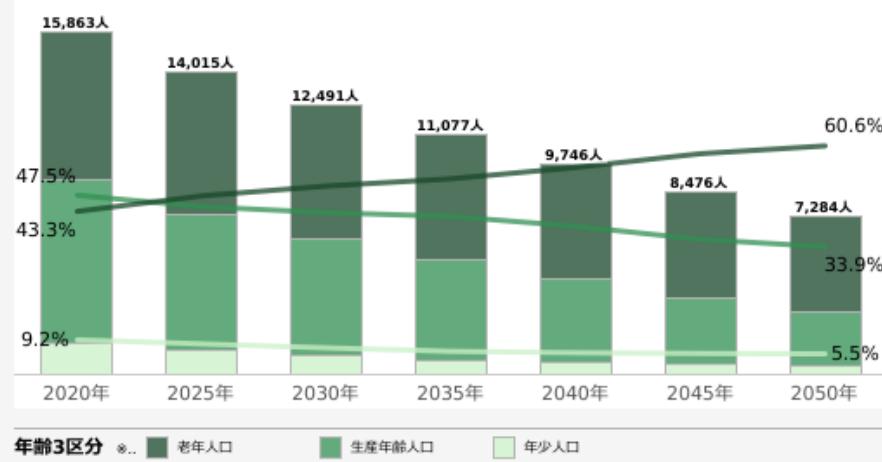


佐用町の人口

(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

2 人口推移

(2020年～2050年 兵庫県佐用町 年齢3区分人口及び割合)



高齢化率(予想)

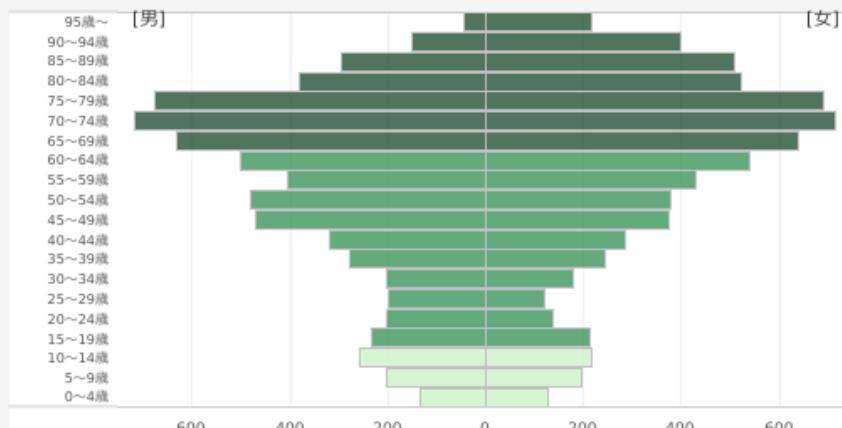
2035年: 51.9%
2050年: 60.6%

人口(予想)

2035年: 11,077人
2050年: 7,284人

3 人口ピラミッド

(2025年 兵庫県佐用町 男女5歳階級別人口)

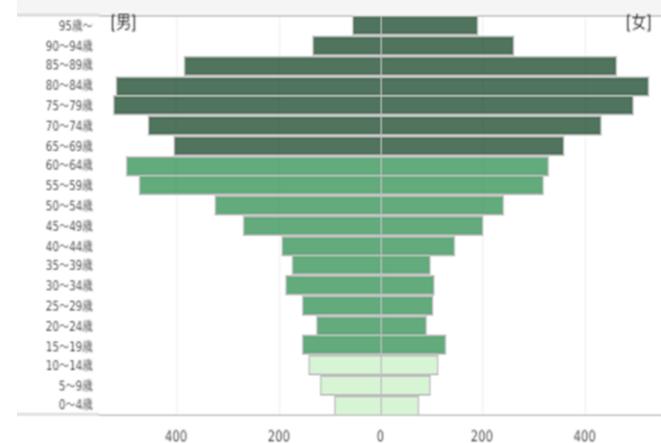


2025年

高齢者人口割合がさらに増加

3 人口ピラミッド

(2035年 兵庫県佐用町 男女5歳階級別人口)

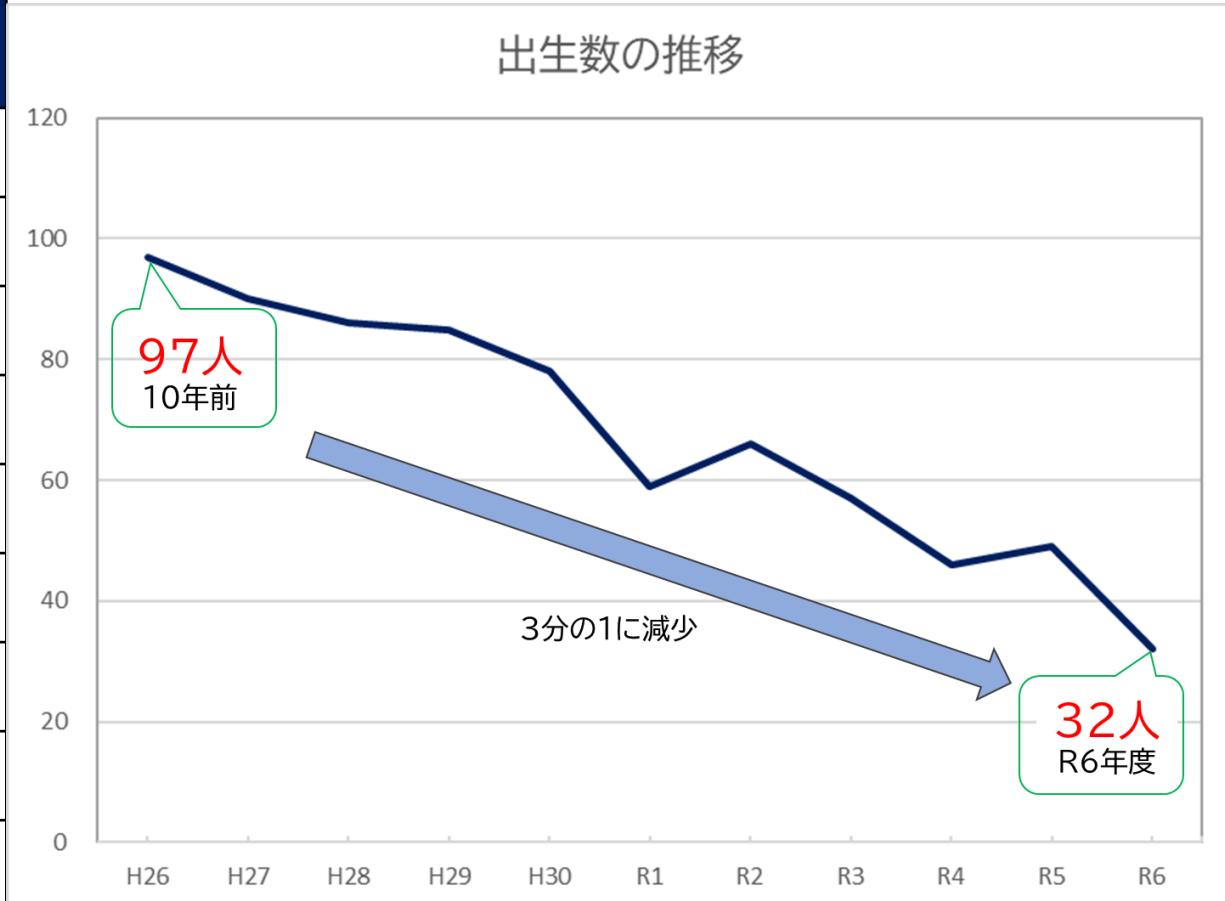


2035年

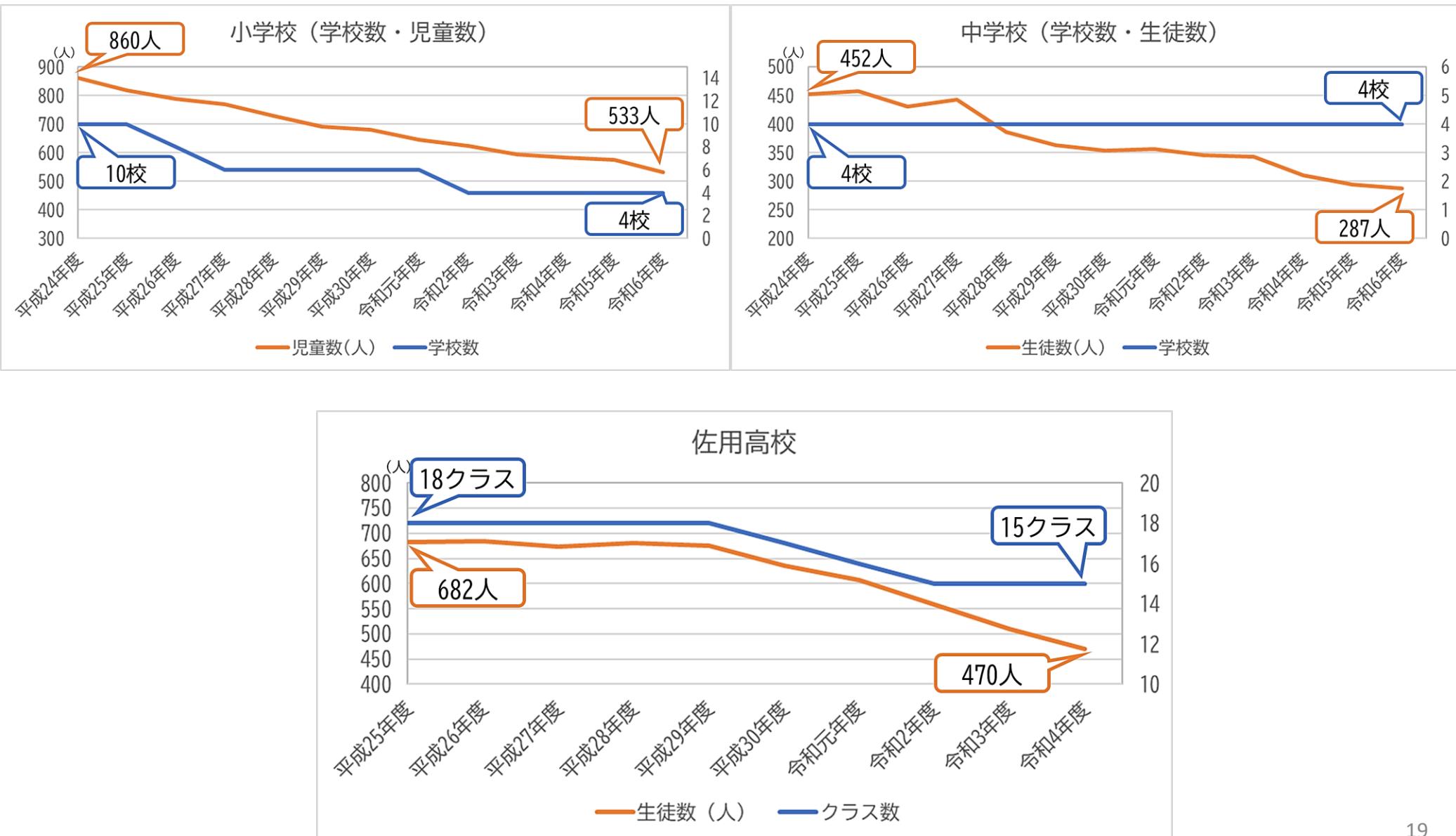
若者の人口割合がより減少

佐用町の人口（出生数）

年度	町内の出生数(人)
H26	97
H27	90
H28	86
H29	85
H30	78
H31	59
R2	66
R3	57
R4	46
R5	49
R6	32



佐用町内の学校



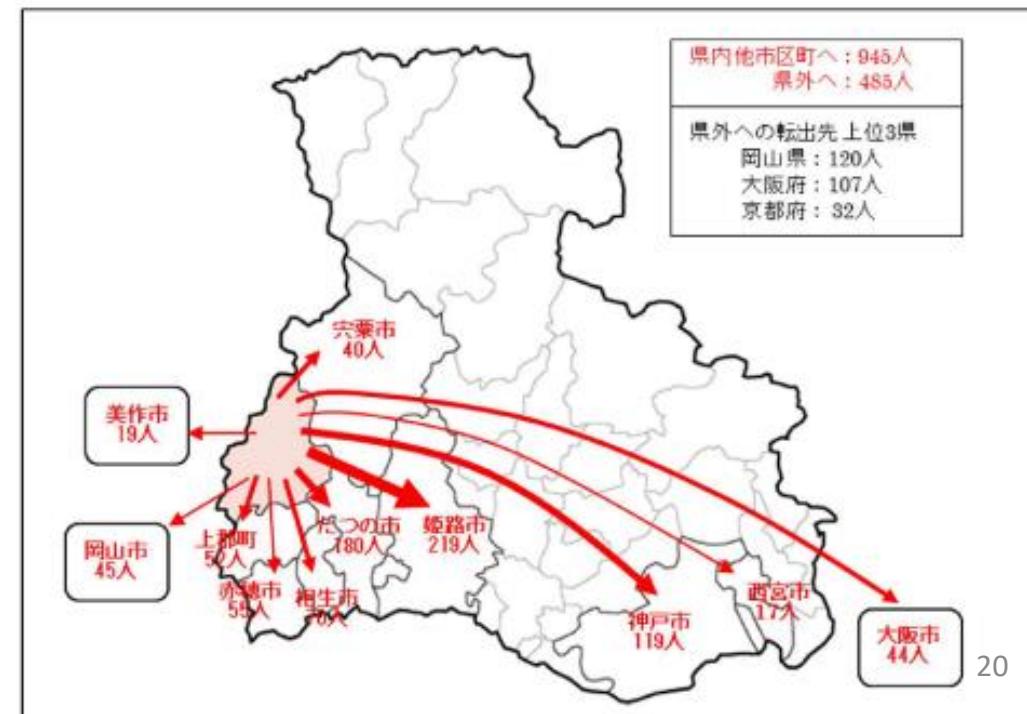
これまでの各自治体の取組みとその結果

- ・魅力的なまちをPR⇒人口確保
⇒国内で人口を奪い合い
- ・便利で魅力的な都市部に人口移動
⇒地方部で顕著な人口減少

【転入先（平成 23 年～平成 27 年）】



【転出先（平成 23 年～平成 27 年）】



人口が減少することで出てきた課題

○生活

- ・地域コミュニティー維持困難
- ・医療などのサービス低下
- ・買い物困難
- ・交流機会の減少
- ・鳥獣被害の増加

○地域

- ・人口流出の加速
- ・少子高齢化の加速
- ・空き家の増加
- ・耕作放棄地の増加
- ・景観の悪化

○経済

- ・労働力の不足
- ・消費の低迷（企業活動低下）
- ・企業の撤退・倒産の増加
- ・就労先の減少

○公共

- ・税収減少、財政悪化
- ・職員数減少し、行政機能が弱体化
- ・災害対応に支障
- ・インフラ（水道、道路、橋）の更新が困難
- ・交通サービスの維持困難

○文化・伝統

- ・地域行事や伝統芸能の消滅

○社会保障

- ・年金・医療・介護の負担増加
- ・介護人材の不足

これからのまちづくり

これからの新たなまちづくりの考え方

日本は人口減少時代に突入中

その中では

人口減少時代に合った取り組みが必要

でも

取り組めているまちはまだほとんどない

くわえて

新しい取り組みの考え方も方法もまだ見えてない

しかし

時代の先を見据えて今から行動を起こさないと対処療法に

これからもより豊かに幸せとおもえる佐用町がつづいていくために

これからの新たなまちづくりの考え方

佐用町ならではの取り組み

☆人口減少を緩和することは引き続き取り組む

人口減少により佐用町の未来を諦めるわけではない

少子化対策・子育て支援等の取り組みは維持していく

※いかに人口減少を抑えるか、安心・安全で充実した暮らしを維持するか

○人口減少をポジティブに受け入れ

○人口減少してもより豊かに暮らしていくために

みんなでどう取り組んでいくかを話し合って考えていきたい

人口減少してもより豊かに幸せに暮らすために

人口が減少することを前提とした

社会構造への積極的な取り組みや新たな考え方への転換が必要



R 5～

佐用町：縮充のまちづくり

縮充という言葉はつかっていないが、

将来を見据えより充実したまちにするための取り組みは大小みんなしてきている？

行政としての取り組み事例

○町の合併

○学校等の統廃合

縮充のまちづくりとは？

【縮充】という考え方

みんなで工夫と選択を重ね、負担を減らしながらもより充実させる

より簡潔に言うと、

将来を見据えて前向きに取り組むこと
(変えていく、受け入れていく)

縮充のまちづくり

これまで以上に

多くのみんなが参加し、考え取り組むことが重要

佐用町合併から20年

合併時のまちづくりの基本姿勢

～住民と行政との協働による自立したまちづくり～

限られた財源で適切なまちづくりや住民サービスを実現していくためには、行政・住民・企業がそれぞれの役割を再認識し、できることを分担しあいながら、協力・連携してより良いまちづくりを一層進めていく改革の姿勢が重要。

新町まちづくり計画 まちづくりの基本姿勢より抜粋

行政と住民の協働の場として 地域づくり協議会が発足

主な活動



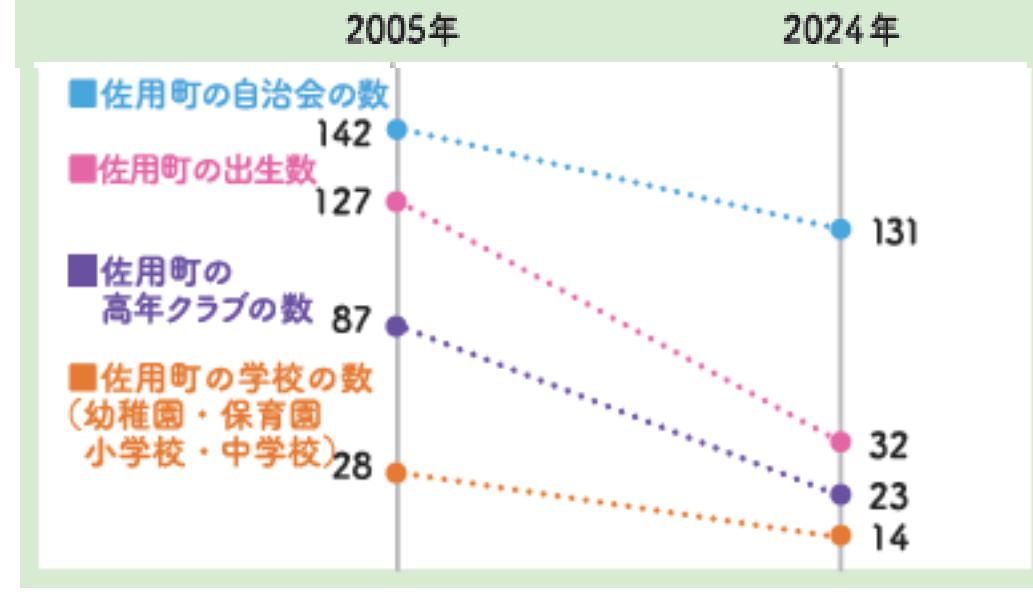
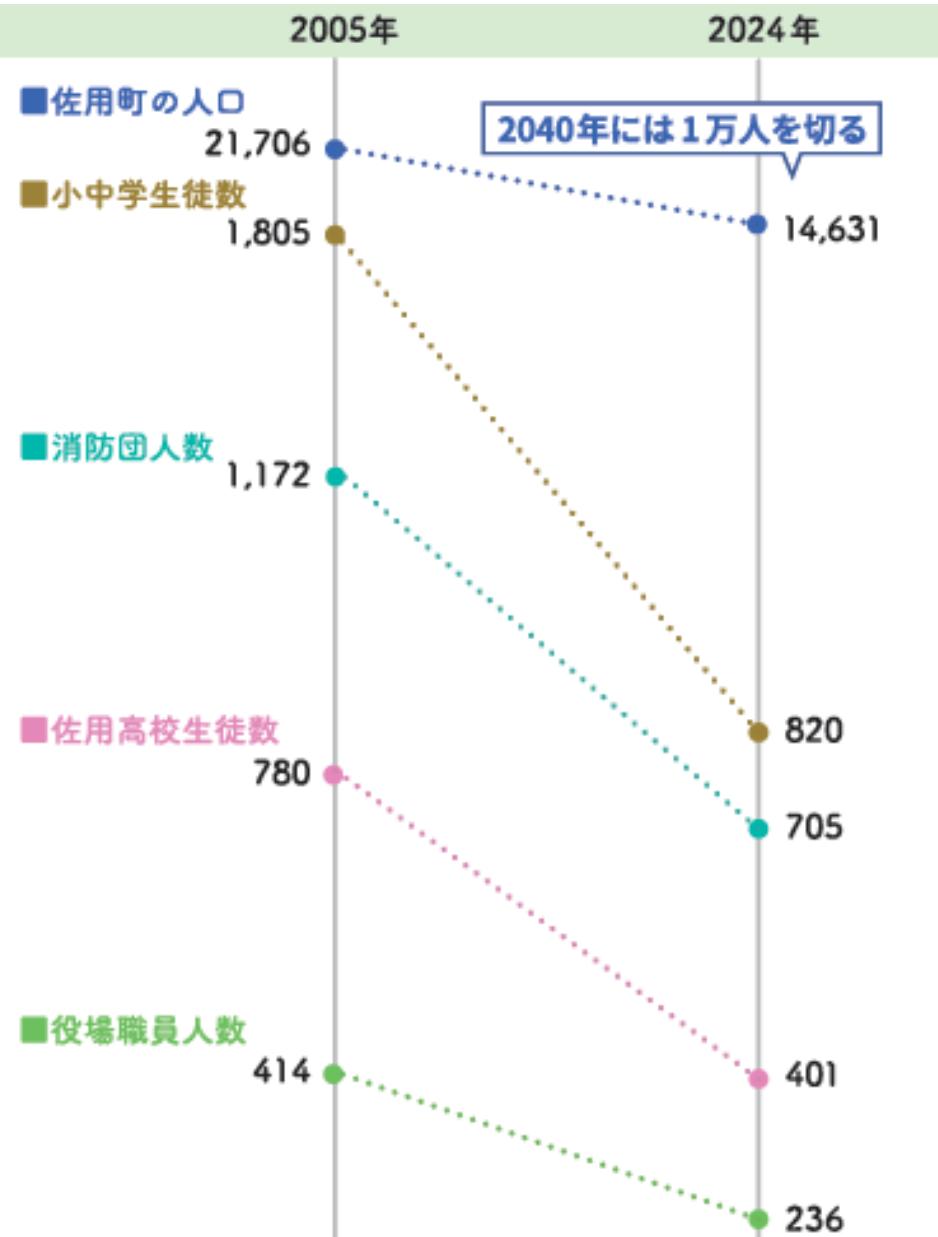
江川地域づくり協議会
「江川ふれあい号」



三日月地域づくり協議会
「おいでな食堂」

佐用町の20年の変化

縮充BOOK 3ページ



この20年で色んな分野で変化が起きた

地域づくり協議会も影響が出てきた

H30年度実施「意見交換会：地域のこれからを語る会」アンケート結果より

〔図表 1-12：地域づくり協議会の課題〕

《項目》	現状・課題の内容	課題を感じて いる協議会数
■意義や役割の認識	・何をする組織か理解されていない	6
■自治会との関係性	・自治会活動が困難になってきた ・自治会活動だけで大変だ、忙しい	8 7
■組織・役員などの体制	・充て職により任期が短く、動けない ・自治会長頼みの役員体制である	8 11
■事業・活動内容	・イベント屋になってしまっている ・事業や活動内容がマンネリ化している ・課題解決事業などに取り組むべきではないか	7 12 10
■住民の参画意識	・事業や活動の参加者が少ない、減少している ・若者や子どもなどの参加が少ない	7 10
■人材育成	・センター長などの後継者がいない ・若者が忙しくて、役を頼めない	9 7
■地域まちづくり計画の実践	・計画どおりに活動ができていない (実践しているかの検証もできていない)	8
■他地域・他団体との連携	・他の地域が何をしているのかが分からぬ ・地域内のいろんな団体との調整が難しい	6 5
■行政との関係	・もっと役場職員に地域にかかわってほしい	10

「縮充」誕生のキッカケは地域づくり協議会の見直し

地域づくり協議会の見直し

「みんなの地域づくり協議会 活力向上プロジェクト（みん活）」

各地域づくり協議会が事業や組織体制などを見直し

担い手不足で負担感が増えているのは、地域づくり協議会だけじゃない

他の組織や活動でも同じ状況にある

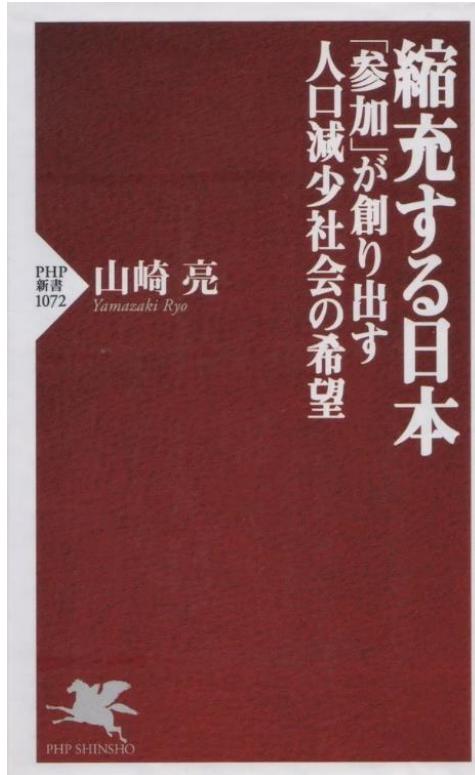
町全体の見直しを考えていく必要がある

現状と目指したい姿に合った、みんなで共有できる言葉

「縮充（しゅくじゅう）」

縮充の意味って

縮充・・・人口が減少するなかでも、充実した生活を送る



コミュニティデザイナー 山崎亮さんが提唱

「縮充」は造語、「縮絨（しゅくじゅう）」が由来

ウールをアルカリ性の液体の中で揉むと毛がからまって縮みながら肉厚でより暖かい生地になる。これからのまちづくりに大切なのはこの感覚と思った。

著書より一部抜粋

「縮絨」

「縮絨」は繊維の用語でウールなどの繊維に水や圧力を加えて生地を密にすること手法

縮充をすすめるには分かりやすいイメージが必要

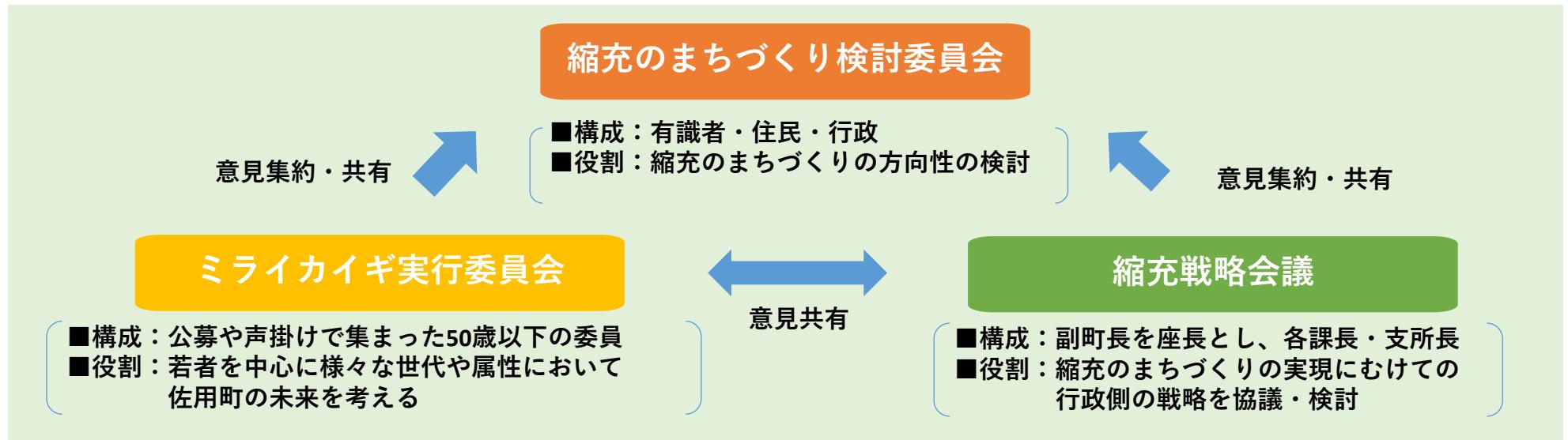


役場職員での話し合い

縮充という言葉にネガティブなイメージがある
縮充を町全体で進めるのに、まず分かりやすいイメージが必要！！

正しく縮充の意味を知ってもらう必要がある
そのためにみんなで考えていく

約1年半 佐用町での縮充を検討してきた



常に話し合うこと、積み重ねていくことを大切にして、方向性が出てきた

縮充BOOK

みんなで考える縮充のまちづくり

この冊子で特に伝えたいこと

- これまでのやり方や考え方を
変えていく
- これから大切にしていきたい
5つのポイント



1.これまでのやり方や考え方を変えていく

これから日本全体でも人口が減る、社会状況も変化する

同じやり方、考え方では通用しなくなる

考え方や行動も時代に合わせた変化が必要

例えば

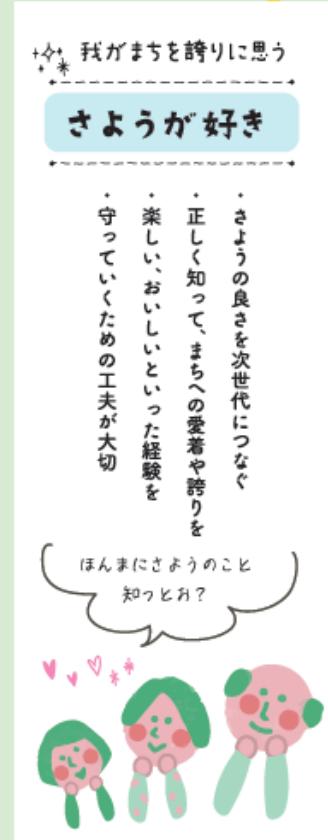
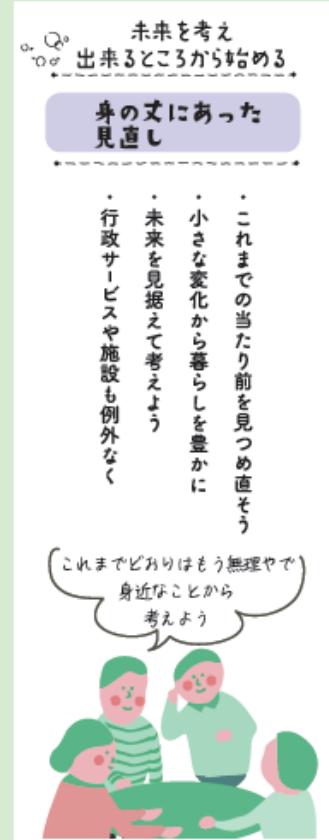
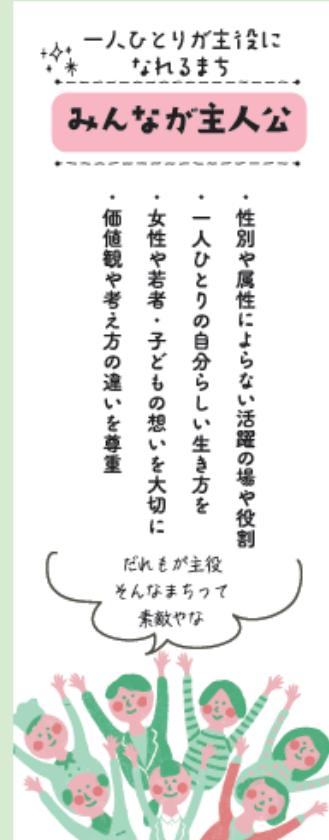
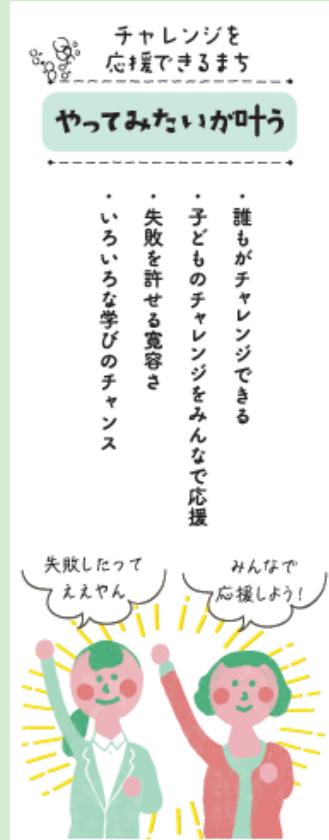
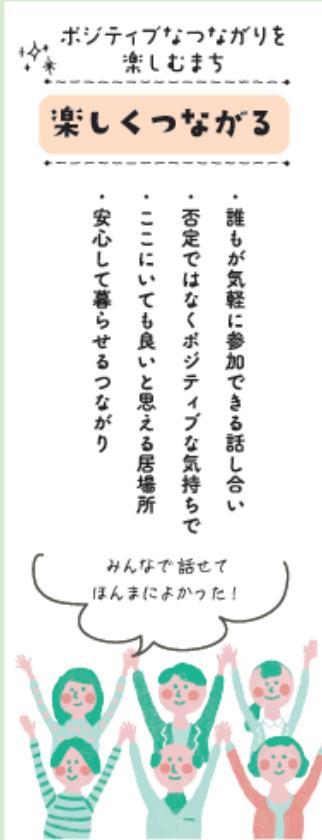
負担になっているものは積極的に「縮少」
ただ、必要なことや大切にしたいことは「充実」させていく

また、いろんな価値観を受け止める寛容さも大切

2. これから佐用町で大切にしていきたい5つのポイント

モノサシ(尺度)を変えるヒント 例えは・・・「数や量より、質や密度を大切にしてみる」 「まずやってみることを大切にしてみよう」

これからさらに大切にしたいポイント



小さくても少なくとも
ここころ豊かでしあわせと思えるまち

大切にしたいポイントはとにかく話し合って出てきた



縮充のまちづくり検討委員会
ミライカイギ実行委員会

一部意見

- ・若者や女性が活躍しやすいまちに
- ・女性、若者、子どもの思いを大切に
- ・自分らしい生き方ができるまちに
- ・女性がもてなすが固定化されすぎていない？
- ・少ない意見が大事にされる
- ・子どもを中心に据えたまちづくりを考えたい
- ・新しい価値観を受け入れるまちに
など



一人ひとりが主役に
なれるまち
みんなが主人公

- ・性別や属性によらない活躍の場や役割
- ・一人ひとりの自分らしい生き方を尊重
- ・女性や若者・子どもの想いを大切に
- ・価値観や考え方の違いを尊重

今までも大切にしてきたこと。もしかしたらこれまであまり大切に出来てなかつた‥?
これを機に改めて大切にしていきたい。

まず、みんなで考えていくことを少しづつ広げたい



縮充はじまりの日（BOOKお披露目会）

地域での話し合い

出前講座などの意見交換から

- ・これから縮充の視点が必要と感じた
- ・「縮」という言葉がネガティブ
- ・これから大切にしたいポイントに共感
- ・役場が色んな事をやめて楽しもうとしている
- ・で、結論なにしたらいいの？

つまり縮充って

で、結論なにしたらいいの？

将来を見据えて、考えたり、見直したりすることは
すべて「**縮充**」

今までも

- ・地域づくり協議会の「みん活」
- ・支所と文化センターとの統合
- ・佐用町の合併も

名前が付いていないだけで「縮充」

まず「縮充」を旗印に将来を見据えた取り組みを
増やしていきたい

少しづつ始まっている これからを見据えた動き①

「やってみたい」を応援

・若者グループ活動応援事業

50歳以下のグループを対象に「佐用町で何かをやってみたい！」
ということに対して町が応援。

(町内福祉施設へのアニマルセラピーの実施 など)

・海内地域づくり協議会の若者へのサポート

海内地域づくり協議会では、協議会内の若者を応援することを目的に、
若者主催事業に協力。(駐車場係や道案内を地域づくり協議会役員が担う)



▲ 高校生が福祉施設を訪問

佐用町ならではの教育環境の実現に向けて

・地域の方が家庭科授業（ミシンの授業）算数授業（九九の確認）へ参加

佐用小学校では授業の補助を地域に依頼、特に先生一人では対応しづらい授業
に地域の方が補助に入っている。

・学校のあり方検討

子どもたちのより良い教育環境の実現をめざし、人口推移等を見据えながら
学校のあり方を検討中。



▲ ミシンの授業の様子

既存事業を活かした、新たなやり方

・地域デイサービスの取り組み（各自治会や地域づくり協議会）

地域で実施していた、ふれあい喫茶や100歳体操を合わせて実施。
運営資金の一部を町が補助。地域の方が参加したくなる場へ。



▲ 江川地域づくり協議会での様子

少しづつ始まっている これからを見据えた動き②

これからを見据えた組織体制や事業等の見直し

・地域づくり協議会

「いま」に合った、そして将来を見据えた組織体制や事業は何か。
現在4つの地域づくり協議会が検討を始めている。



▲ 地域づくり協議会での話し合い

今よりもさらにつながれる場を

・支所や文化センター等の既存施設の有効活用を検討

みんなが集いやすい、使いやすい場所にするために検討をし始めている。
利用者の目線に立って出来る限り、みんなが使いやすい利用方法を検討し
ている。



・ミライカイギをきっかけとして、若者が気軽に集まれる場に

コバコが若者が集まり情報共有する場に。佐用高校JRC部の部室としても利用中。
ハンドメイド雑貨等を販売しており、販売者同士の交流の場にも。

▲若者の集い（コバコナイト）

小さなことから少しづつ変化させていきたい

縮充をより具体化していくための総合計画を

「縮充」　まだまだ理念と理想が先行している



▲民生委員の研修会で総合計画の説明

「これからの佐用町での暮らしで私が大切にしたいこと」をテーマにみんなで話し合い

縮充を実現するための具体的な行動や取り組みを示したものが「**総合計画**」

これから審議会のみなさんと一緒に考えていきたい

自己紹介

感想共有

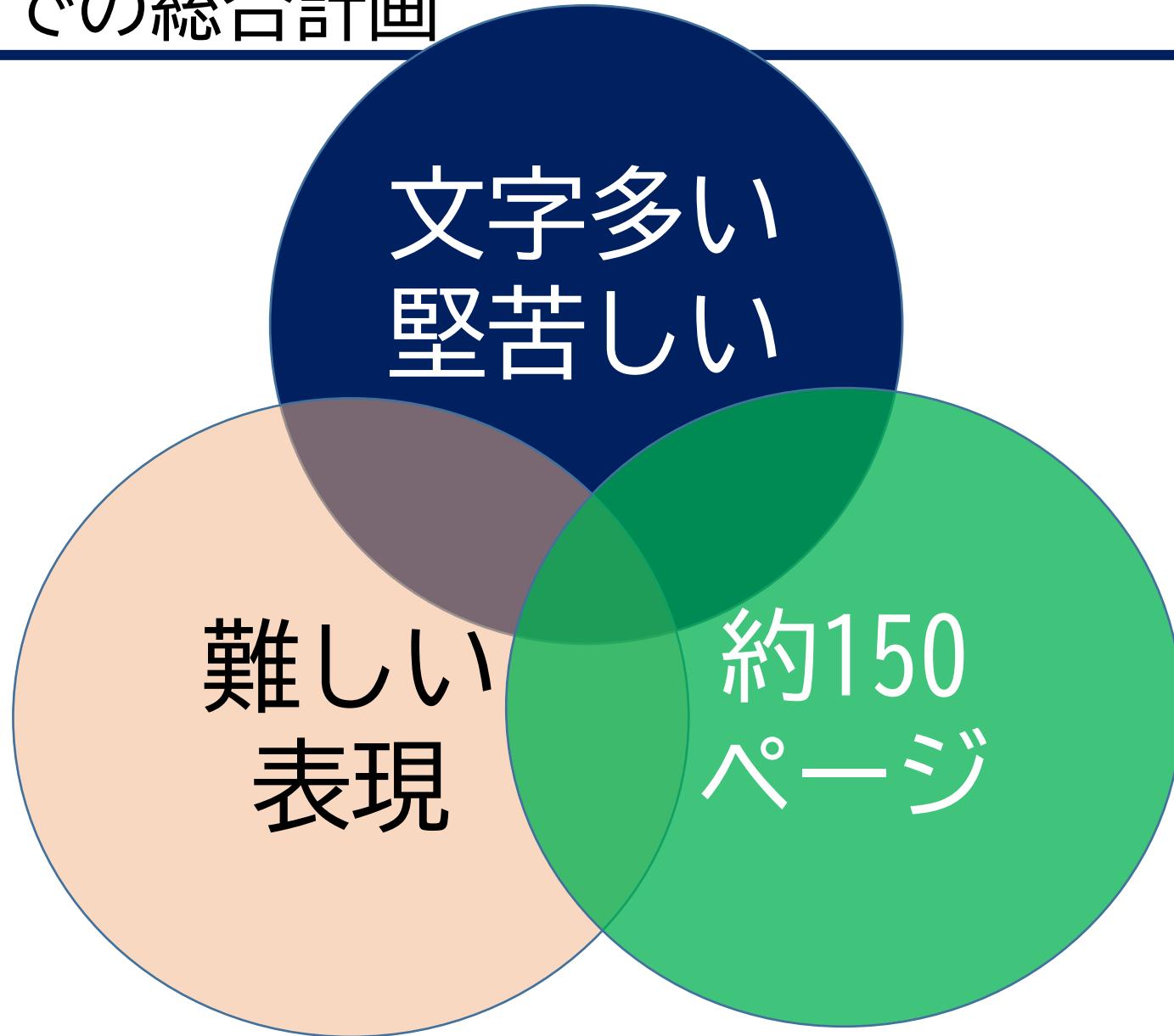
私が思う 「これって縮充？」

- ・ 小さなこと、些細なことでもOK
- ・ 身の回りに起きている変化
- ・ 誰かが／自分が取り組んでいること
- ・ 自分が取り組みたいこと

付箋に書いてね

次期総合計画の ポイント

これまでの総合計画



なかなか手に取って読んでもらいにくいものに

次期総合計画のポイント

【大切にしたいポイント】

- 実際に手に取って使える
- 行政のためだけでなく、住民のためにもなる

みんなの総合計画